

道内コミュニティの 活動実態アンケートの サマリー

作成日：2024年6月27日(木)

作成者：OSC2024 北海道実行委員会、一般社団法人 LOCAL

2020年以降、世の中が新型コロナウイルス感染症の影響下におかれてきましたが、2023年になりようやく回復の兆しが見えてきました。

2024年の今年は、オフライン開催が復活し始めてからの1年間を見通し、北海道内のコミュニティの活動状況について、2020年から引き続き、課題点・工夫している事項・意識の共有を目的として、各コミュニティに協力をいただき、アンケートを実施しました。

実施時期：2024年5月下旬～6月下旬

回答数：n=26

総括

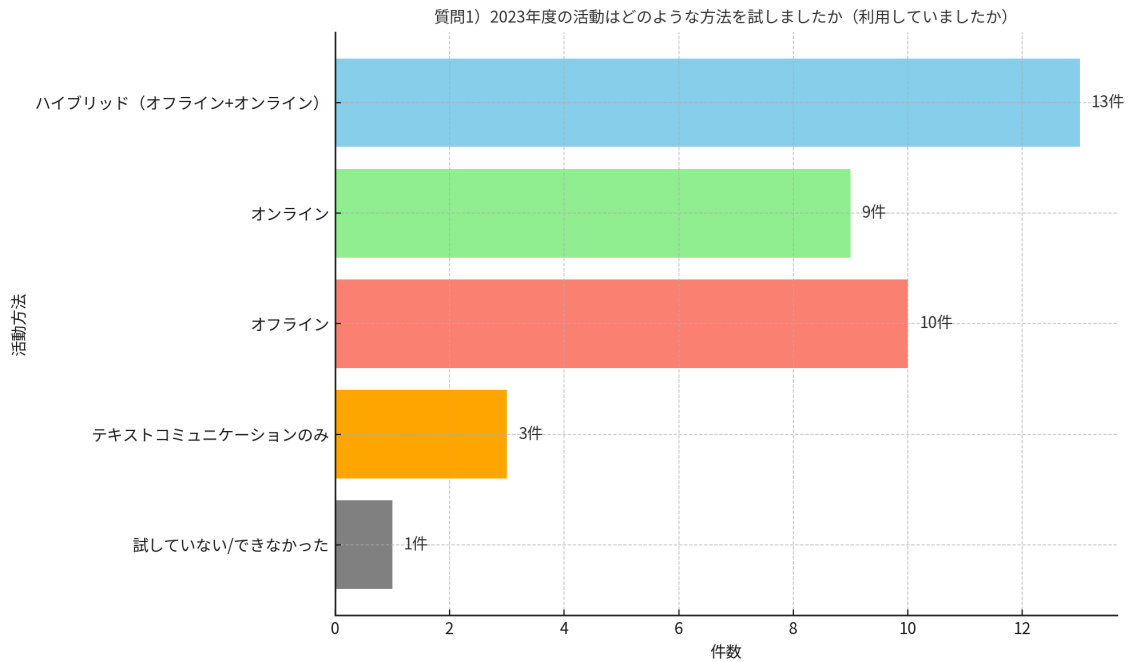
2024年のアンケート結果から、北海道内のコミュニティ活動は、コロナ禍から回復しつつあり、オフラインでの活動が復活してきていることが分かりました。今調査期間における主流の活動方法になっていると捉えています。また、オンラインとオフラインを併用するハイブリッドな形態が一般化しており、活動の多様化と活発化が見られます。今後もコミュニティは柔軟に活動を続けながら、新たな挑戦を続けていくことが期待されます。

質問 1) 2023 年度の活動はどのような方法を試しましたか(利用していましたか)

2023年度(前回)のアンケートではオンライン+オフラインのハイブリッド開催が45.5%という結果でした。2024年度(本年度)では、オンラインのみ、オフラインのみの開催についても増加しており、オフライン開催ができるようになったことによる開催方法の多様化がみられました。また、Slack などテキストコミュニケーションの利用も少なからず見られました。活動を休止していたコミュニティが再開したという嬉しい報告もありました。

ハイブリッド (オフライン+オンライン) : 13 件

オンライン: 9 件
オフライン: 10 件
テキストコミュニケーションのみ: 3 件
試していない/できなかった: 1 件

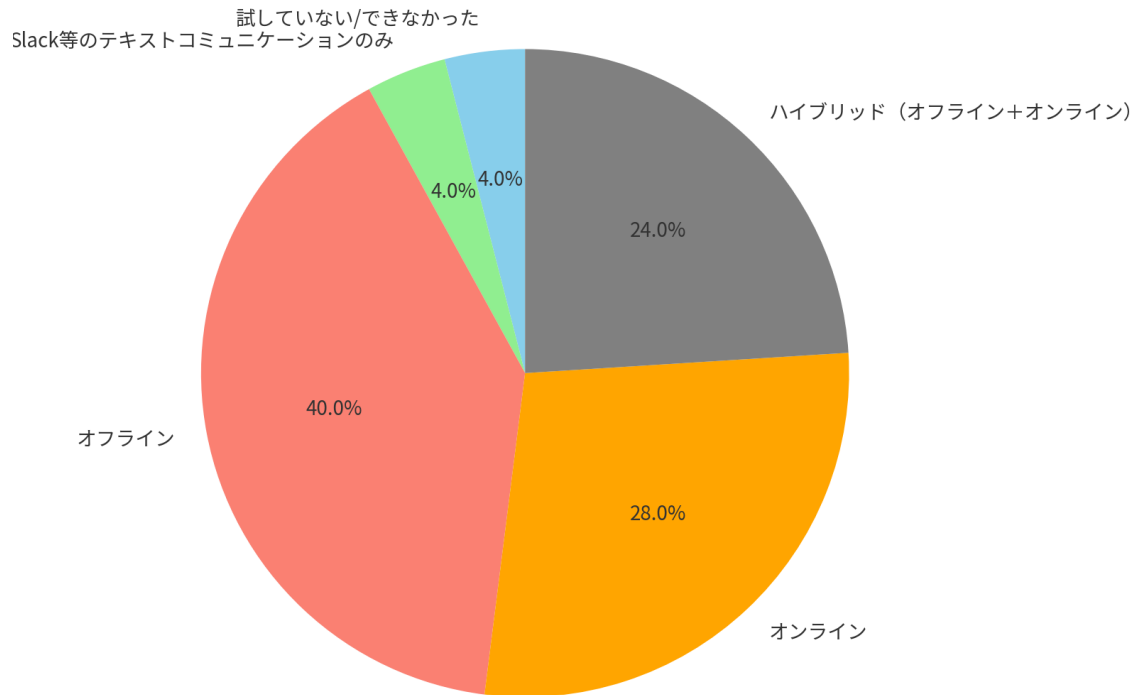


質問 2) 2023 年度の活動はどのような方法が主流でしたか？

前回アンケートの結果では、2022 年度はハイブリッド開催がメインという結果でした。今回の結果では、オフラインのみが 10 件と、ハイブリッドより多い結果になりました。この 1 年間で、急速にオフライン開催が復活したことが伺えます。

ハイブリッド (オフライン+オンライン) : 6 件
オンライン: 7 件
オフライン: 10 件
Slack 等のテキストコミュニケーションのみ: 1 件
試していない/できなかった: 1 件

質問2) 2023年度の活動はどのような方法が主流でしたか？



質問 3) 2023 年度の活動量は前年度 (2022 年度) と比較してどの程度の活動量でしたか

最も多かったのは「2022 年度よりも活動量が増加した」という回答で、全体の約 54%を占めました。多くのコミュニティが前年に比べて活動を活発化させたことがわかります。

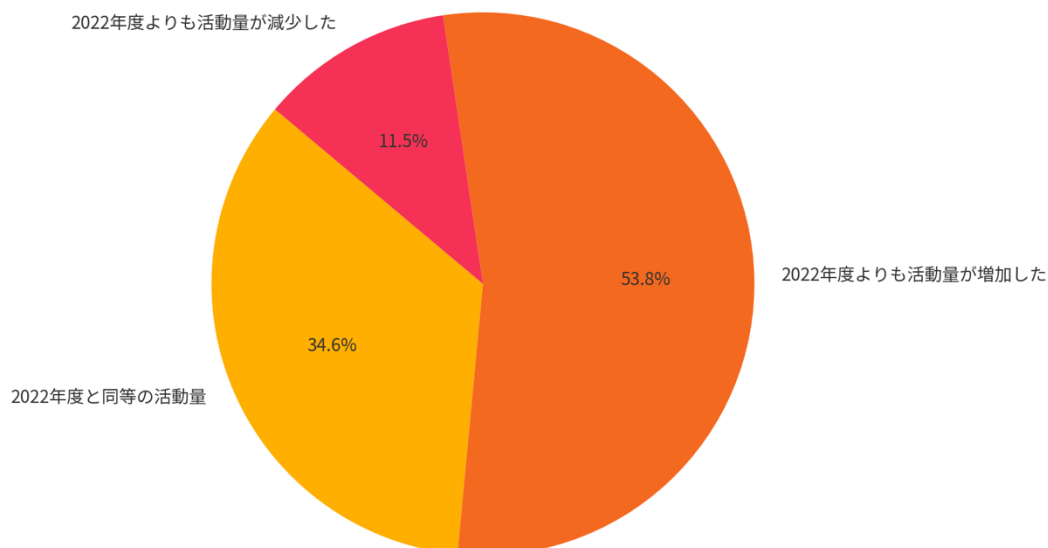
「2022 年度と同等の活動量」という回答で、全体の約 35%を占めました。これらの団体は前年と同じレベルでの活動を維持しています。「2022 年度よりも活動量が減少した」という回答は少なく、全体の約 12%でした。減少した理由については個別の団体の状況により異なる可能性があります。前回のアンケートよりも少なくなっています。

2022 年度よりも活動量が増加した: 14 件

2022 年度と同等の活動量: 9 件

2022 年度よりも活動量が減少した: 3 件

質問3) 2023年度の活動量は前年度（2022年度）と比較してどの程度の活動量でしたか



質問 4) 勉強会・イベントをオンラインで運営・開催する選択肢が一般化しましたが、運営するコミュニティにどのような変化がありましたか

○イベント参加者に関する変化

- イベント参加者が減った: 3 件
- イベント参加者が増加した: 9 件
- イベント参加者は変化がなかった（横ばい）: 5 件

○イベント開催に関する変化

- イベント開催が減少した: 1 件
- イベント開催が増加した: 6 件
- イベント開催は変化がなかった（横ばい）: 11 件

○活動の変化全般

- 従来の活動と比較し大きな変化はなかった: 9 件
- 全国のコミュニティと連携したイベントが開催可能となった（開催した）: 5 件
- ずっとゆるいまま: 1 件

多くのコミュニティでイベント参加者が増加しており、積極的な参加が見られます。イベント開催数においては、変化がないか増加しているコミュニティが多いです。全体の活動は安定しており、大きな変化は少ないものの、新たな連携イベントの開催などポジティブな動きが見られます。

質問 5) 前年度(2022 年度)と比較して活動量が増えた(あるいは維持されている)のはなぜですか。答えられる範囲でご記載ください

多くのコミュニティがコロナ禍を経てオンライン開催からオフラインまたはハイブリッド開催へと移行しています。オンライン化の利点として、道外や全国からの参加者の増加が挙げられる一方、地元感の薄れやリアル開催への移行に伴う準備の負担が見受けられます。

2023 年度から新たに立ち上げられたコミュニティから複数ご回答いただきました。特にコロナ収束後のオフラインイベントの開催が多く見られます。既存のコミュニティは、オンライン・オフラインの両方の開催が安定していることが報告されています。継続的な参加者の存在が、活動の安定に寄与しているようです。

総じて、コミュニティはオンラインとオフラインのハイブリッドモデルを採用しつつ、安定した活動を続けています。また、新たなコミュニティの立ち上げや新規イベントの企画により、活動量が増加する傾向が見られます。一方で、外部要因や予期せぬトラブルに対応しながら、柔軟に活動を継続している姿勢が全体的に感じられます。

年に1度の開催のため、開催頻度には影響がなかった。しかし、オンライン化したことにより地元感が薄れ北海道在住の実行委員が減少した。

会・イベントの発足が今年度からである為

2023 年度から立ち上げたコミュニティのため

もともと道外コミュニティと連携開催するオンラインミーティングが多かったため、技術的に困る場面はまったく存在せず、自由に楽しむことができていました。定期開催しているミーティングイベントは通常通り継続している他、道外からのゲストや相談に応じてイベントを立てていましたので、ゲストの増加に応じて総イベント数が微増しました。

オフライン、オンラインどちらもの開催が安定してきたため。

コロナが収束を迎えた 2023 年 6 月ごろに立ち上げた、イベント・コミュニティです。コロナが収束を迎えたからこそ、オフラインでの勉強会・懇親会を行うことができ、かつ満足度の高い濃密な時間を提供できていると考えています。

- ・ミーティングなどをしようと言うメンバーがいない(代表も本業多忙のため声がけができなくなった、コミュニティの内容が仕事に昇華したなど)
- ・他のコミュニティが活発化したので、わざわざ弊団体で行う必要性が薄れた

2022 年は活動が無く、2023 年で活動を再開したため
2023 年度に立ち上がったので 2022 年度との比較はありません
毎年行っているイベントに加え、新たなイベントの企画等積極的に行っています。
以前行っていたオフライン開催のペースや体制に戻すことができました。
継続的に参加してくれるメンバーがいるため
技術カンファレンス準備に注力しており、中々通常開催ができずにいます。
コロナ禍による制限がなくなったため
2022 年度のオンラインのみから 2023 年度にオフライン開催の再開を行うに当たって、改めて準備などに時間がかかった。
オンラインで気軽に定期開催できる。
活動量は、微増傾向の横ばい。急な体調変化があった場合でも安心して参加できるよう、ハイブリッド環境を用意することを続けています。SC4Y(次世代育成事業)では、リアル参加者が右肩上がりが増え、会場で切磋琢磨する様子がみられます。
オンライン開催から、リアル開催に切り替えました。(元あったスタイルに戻した)活動量としては、年度ごとに変化が大きなイベントではないのですが、今回は会場に爆破予告が入り、途中での解散→仕切り直しを余儀なくされ、実質 2 度開催することになりました。
U16 プロコンが道内だけでなく、本州方面にも広がっています。全国での交流試合などもリアルで開催されるようになり、活動量は少し増えた。

質問 6) 前年度(2022 年度)と比較してコミュニケーション方法・量に変化した(あるいは維持されている)のはなぜですか。答えられる範囲でご記載ください

コミュニティはオンラインとオフラインのハイブリッドな形でコミュニケーションを維持・増加させているようです。オフラインでの直接的な交流が増加し、チャットツールの活用が進む一方、オンラインでの呼びかけや連絡が減少するという課題も見受けられます。新たなコミュニティの立ち上げや全国的な連携イベントの開催により、活発な交流が続いていることが全体の傾向として見られます。

もともとチャットと月に一度の打ち合わせが主流だったこともあり、変化はなかった。
会・イベントの発足が今年度からである為上記を選択
2023 年度から立ち上げたコミュニティのため
チャットツールの導入でコミュニケーションが増加した。

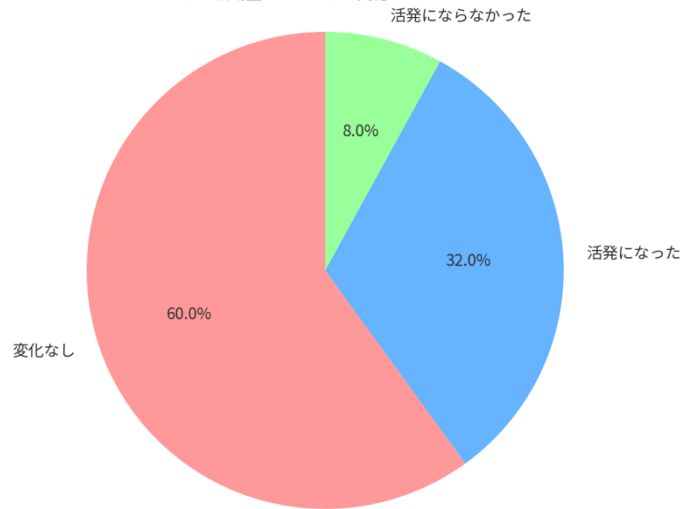
オフラインでの勉強会・懇親会だからこそ話せること、伝わる空気感があり、それらを提供できているからです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどをしようと言うメンバーがない（代表も本業多忙のため声がかげができなくなった、コミュニティの内容が仕事に昇華したなど） ・他のコミュニティが活発化したので、わざわざ弊団体で行う必要性が薄れた"
2022年は活動が無く、2023年で活動を再開したため
普段連絡用のチャットツールの活用が多くなり、定例会も必ず行っている。
以前行っていたオフライン開催のペースや体制に戻すことができた。
定期的開催ができているため
特にないです
オフライン開催により、現場でのやり取りができるようになった。 一方で、オンライン時に比べて、SNSでの呼びかけや登壇者との連絡がやや疎かになってしまった。
オンライン参加でも一定の常連参加者が根付いた。
参加者同士のコミュニケーションは増加している。 勉強会へのリアル参加者が増え、参加者同士、TA・講師らとの直接のコミュニケーションを持つことで、オンラインがメインだった頃よりも活発な交流がみられている。
リアル開催となったため、高校生同士が実際に会って熟議をすることができるようになり、お互いの意見を聞き、自分の意見を言うというコミュニケーションが、より円滑に、活発になりました。
全国での交流試合では、各地区代表者をあつめての交流会が用意され、交流とコミュニケーションがはかられている。

質問 7) 2024 年になり、オフライン開催ができる環境が戻り一年程度経過しようとしています。主に活動量はどのように変化しましたか

約 60%のコミュニティが「変化なし」という回答でした。一方で、活発になったコミュニティも約 32%ありました。約 8%の活発にならなかったコミュニティについても注視していく必要があります。

変化なし：15 件
活発になった：8 件
活発にならなかった：2 件

質問7) 2024年になり、オフライン開催ができる環境が戻り一年程度経過しようとしています。
主に活動量はどのように変化しましたか



質問 8) 今後のイベントの開催形態を教えてください(未定の場合は実施したい形態と最も近いと思われる選択肢を教えてください)

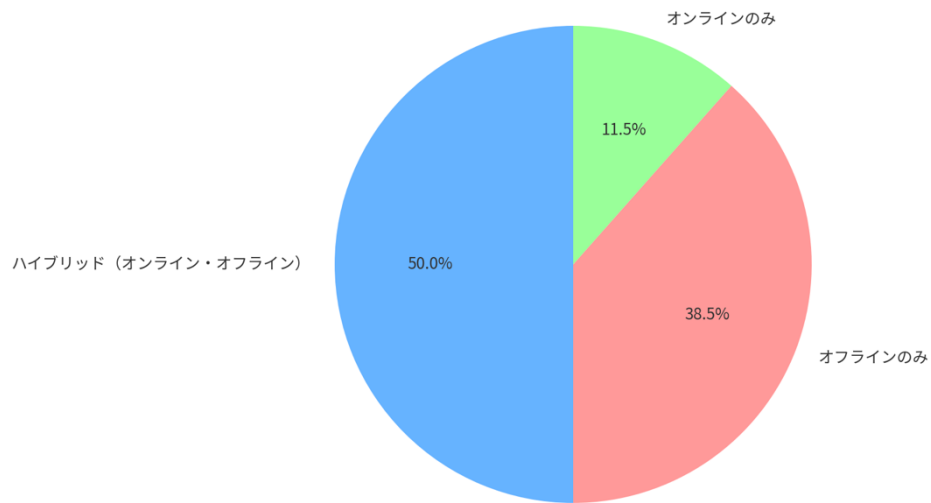
ハイブリッド開催が最も多く 13 件となりました。一方、オフラインのみの開催は 10 件と、オンラインから切り替えるコミュニティもありそうです。オンラインのみの開催も 3 件報告されており、オンラインならではのメリットを活かしたコミュニティのあり方も大事にされています。

ハイブリッド (オンライン・オフライン) : 13 件

オフラインのみ : 10 件

オンラインのみ : 3 件

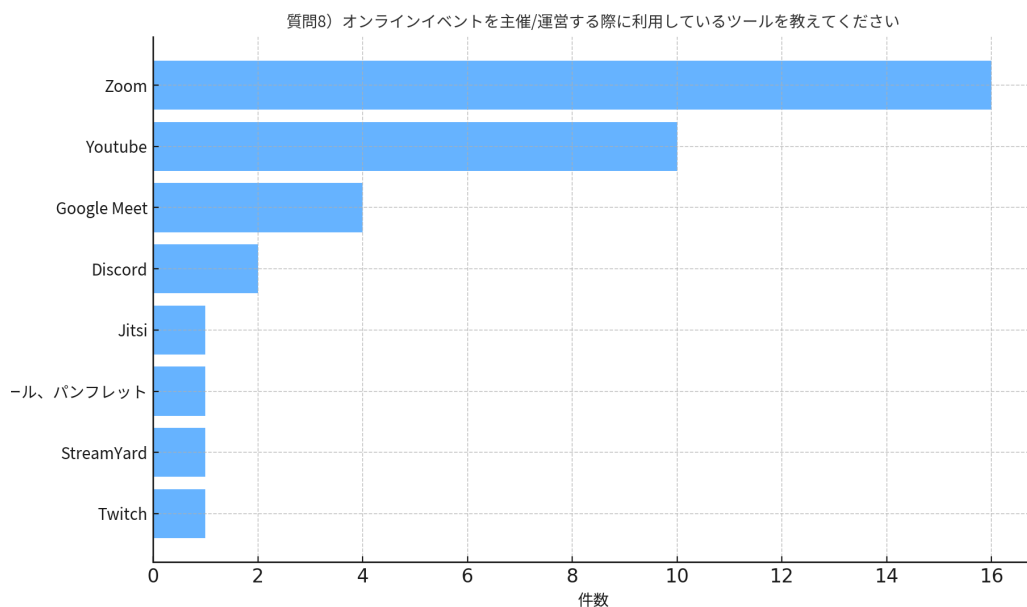
質問8) 今後のイベントの開催形態を教えてください



質問 8) オンラインイベントを主催/運営する際に利用しているツールを教えてください。

全体として、オンラインイベントの主催/運営においては「Zoom」が圧倒的に多く利用されており、その次に「Youtube」が続いています。他のツールも利用されていますが、主に特定のニーズやコミュニティに対応するために選ばれていることがわかります。

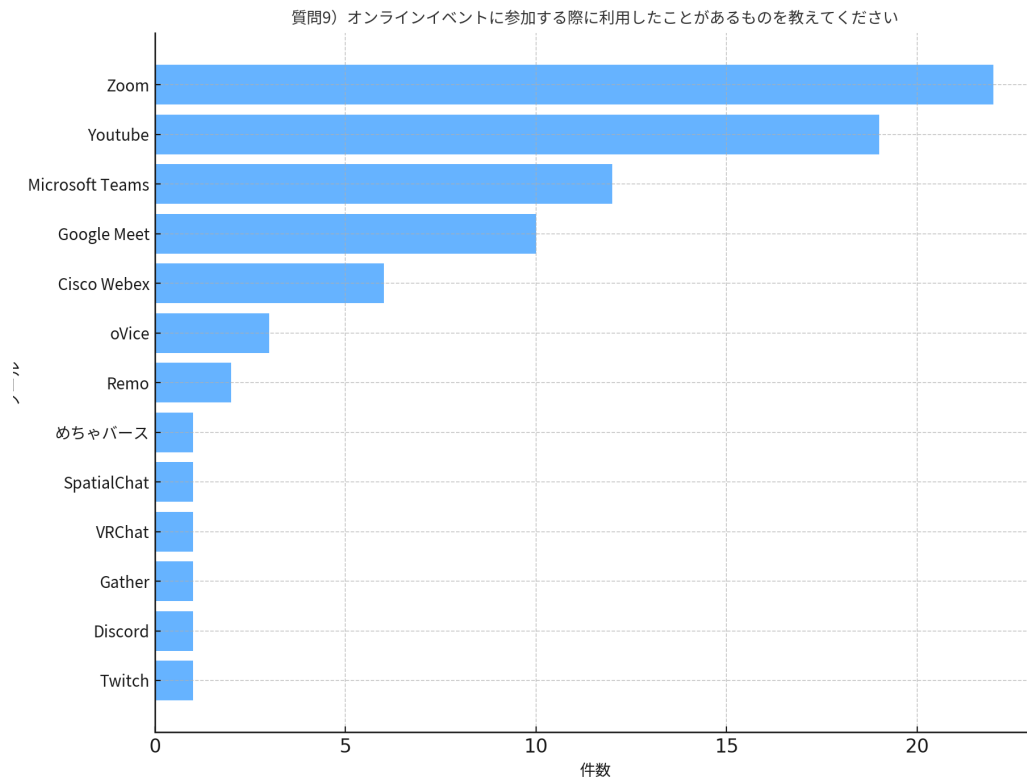
Zoom : 16 件
Youtube : 10 件
Google Meet : 4 件
Discord : 2 件
Jitsi : 1 件
Web、メール、パンフレット : 1 件
StreamYard : 1 件
Twitch : 1 件



質問 9) オンラインイベントに参加する際に利用したことがあるものを教えてください。

全体として、オンラインイベントに参加する際には「Zoom」が最も多く利用されており、その次に「Youtube」が続いています。主要なビデオ会議ツールである「Microsoft Teams」や「Google Meet」も多く利用されています。

• Zoom : 22 件
• Microsoft Teams : 12 件
• Youtube : 19 件
• Google Meet : 10 件
• Cisco Webex : 6 件
• oVice : 3 件
• Remo : 2 件
• めちゃバース : 1 件
• SpatialChat : 1 件
• VRChat : 1 件
• Gather : 1 件
• Discord : 1 件
• Twitch : 1 件



質問 10) オンライン・オフライン問わず、交流会/懇親会に変化はありましたか。答えられる範囲でご記載ください(変化がない場合は変化が無い理由を答えられる範囲でご記載ください)

全体として、交流会/懇親会の形式や参加者にいくつかの変化が見られます。特に、オフラインでは再開や参加者の年代の広がり、オンラインでは活発化などが挙げられます。一方で、変化がないと感じているケースもあり、状況は多様であることがわかります。

懇親会の開催がなくなった。現地在住者が減ったためオフライン懇親会は開催できなかった。

OSC 北海道の展示に参加する以外の活動がない。

ハイブリッドを試したが、オンライン側の参加者が孤独を感じられるようであったため、ハイブリッドは難しいと判断した。

参加する年代が広がった。
マスクの着用義務を課す必要がないので、相手の口を見ることができ、より熱意が伝わるようになったかなと思います。
体力が持たなくなったので、カメラを切って横になって話だけを聞いているパターンも増えてきました
変化なし(ずっとオフラインオンリーなので)
稀に行うオフラインの懇親会は、コロナ禍以前と同じように行えるようになった。
オンラインの方が交流会での話題交換や、初対面の方どうしの交流が活発に行われた印象がある。
オフライン交流会が増えたのは確かです。人数が多すぎて予約が大変になってきています
参加者、階数が増えた
オフラインで懇親会を再開するようになった。
変化なし。主催者がやれる範囲でしか実施していないため。
参加者を含めての交流会は実施していないが、運営サイドでの懇親の回数は少ないが復活し、交流や、円滑な運営につながるコミュニケーションができるようになった。
熟議の前のアイスブレイクとして、一緒にお弁当を食べての交流をすることができました。(爆破予告で解散しちゃいましたが)場のあたためとして、とても有効だと感じました。
開催できなくなっていたものが、開催できるようになった。全国の代表者同士が顔を合わせ、交流することができている。

質問 11) これからの活動で挑戦していきたいこと、目指していきたいコミュニティの形はありますか。答えられる範囲でご記載ください

地元民が活動の主体となる OSC 北海道実行委員会としていきたい。
定期的にできて楽しくできれば。
テーマに特化
コミュニティに参加している方々同士で、自然に学び合えるような形を目指したい。
日常的に学び合えるコミュニティ
技術を学び始めたいと思った時に適切に目に入るコミュニティ
気軽に参加できるコミュニティを目指したい。

<p>オフラインだからこそその価値を継続して提供できればと思っています。その中で規模を広げ、札幌の IT コミュニティを盛り上げていきたいと思っています。今年度の目標としては、北大をはじめとする学生エンジニアと札幌の優良な IT 企業を繋げる場を提供し、学生にとっては経験・コスパの良い仕事、企業にとっては安定的なリソース・新たな視点の獲得など、双方にとって win-win な関係を構築する手伝いをするを目標としています。</p>
<p>必要に応じて集まって、必要がなくなればそれぞれの場所に戻れるコミュニティ</p>
<p>いままで通りユルく続けていきたい</p>
<p>活動量を増やしていきたい</p>
<p>活動も 15 年を超え、年齢層が上がってきているので、若い方達とコミュニケーションをとって行きたい。</p>
<p>コミュニティのイベントや取り上げるテーマと、オフライン（オンサイト）・オンラインの利点の組み合わせをうまく取捨選択して展開をしていきたい。</p>
<p>スタンスは変えず、ずっと労力のかけない運営を目指しています。</p>
<p>高齢者が多いコミュニティのためより多くの若者に活動について知ってもらいたい</p>
<p>オフラインでの開催は、その場でのコミュニケーションがやはり魅力。 ただ、オンラインで場所を超えたつながりも続けられるようにしたい。</p>
<p>参加したことがきっかけで、少しでも人生が良い方向に変わる、良い体験できる勉強会を目指している。（設立時から一貫して変わらない目標です）</p>
<p>事務局がしっかりしているので、年間計画に則した行事は円滑に運営ができています。さらに、どのような活動ができるのか、どのような活動が求められるのかを検討していきます。</p>
<p>OBOG による参加（ファシリテート等）ができるようになることを期待しています。</p>
<p>小学校、中学校へのアプローチを再検討したい</p>

質問 12) 他のコミュニティに聞いてみたいことはありますか

<p>地元民の増やし方</p>
<p>イベントコミュニケーション方法</p>
<p>勉強会コミュニティの地元での過小評価（特に産業界）との折り合いの付け方</p>
<p>今はお腹いっぱいです</p>

懇親会をしやすい、安くて予約人数が厳しくない店を知りたい
オンラインがやりやすくなった一方で、オンサイトの会場確保が難しくなっているように思える。対策方法や、今後の方針について情報交換できると嬉しい。
オフラインで大量に参加者が来た場合の懇親会調整方法と地元とのかかわり方（学生や情報系にあまり関わりのない住民の方など）で「これはよかった」というような取り組みがあれば伺ってみたいと思います。
オフライン開催が戻ってきて、開催場所はどのように探していますか？
良質な企業セミナーやイベントが多い中、地域コミュニティとして継続して活動しているモチベーションはどこにあるのか？

質問 13) これまでの質問項目に該当しない内容で自身の所属コミュニティや、コミュニティを取り巻く環境についてご意見、お悩み等があれば自由にご記載ください

参加者を集める手法がなかなか確立しない。Connpass ではレベルが高すぎる人も来てしまい、他の募集方法も考えないとならない。
なし
集客のより良い方法を模索中です。適切にリーチできているのか調査できたら嬉しい。
イベント開催に良さそうな施設が次々できるものの、どういうわけかビジネスインキュベーションに寄ったコンセプトのものしか生まれず、エンジニアにとって居心地の良さそうな空間が増えてない（気がします）
WEB サイトの更新まで力が割けないのがしんどいところです
主催者のモチベーションが下がっても続けていく方法が知りたい
北海道のコミュニティが増えているような気がしている。コミュニティ運営者としても、とても勇気づけられる。
オフラインになったことで、また「開催日が被る・近い」問題が出てき始めたかな、という印象です。
自身の悩み：年々仕事（本業）の責任と量が重くなり、コミュニティ活動に割く時間が取れないこと。

以上